

イモグサレセンチュウ多発ほ場における 被害軽減のための収穫時期判定技術の開発

野菜研究所

本県のニンニクは全国第1位の生産を誇っていますが、りん片に腐敗をおこすイモグサレセンチュウの対策が大きな課題です。発生ほ場では「ニンニクの収穫が遅くなるほどセンチュウがりん球の“より内部へと侵入”し、その結果腐敗球が多くなる」ことが明らかとなっており、現在、発生ほ場における被害軽減のための収穫時期の判定に関する試験を行っています。

試験の方法

りん球1周分の葉鞘基部の外皮を1枚ずつ剥がす

酸性フクシンで染色し顕微鏡で観察する

イモグサレセンチュウと卵は濃い赤色に染色される。

卵

成虫

試験の結果

りん球内側（りん片側）

内部侵入状況調査

調査日	内側から数えた葉鞘枚数								
	9枚目	8枚目	7枚目	6枚目	5枚目	4枚目	3枚目	2枚目	1枚目
5月8日	+	+	+	-	-	-	-	-	-
5月12日	+	-	+	-	-	-	-	-	-
5月16日	+	+	+	+	+	-	-	-	-
5月22日	-	+	+	+	+	+	+	-	-
5月26日	+	+	+	+	+	+	+	+	-
5月31日	+	+	+	+	+	+	+	+	+
6月5日		+	+	+	+	+	+	+	+
6月9日		+	+	+	+	+	+	+	+
6月14日		+	+	+	+	+	+	+	+
6月19日			+	+	+	+	+	+	+

平成29年 野菜研究所
イモグサレセンチュウ多発生ほ場

被害りん球率(%)

被害りん球率(%)

5月8日 5月12日 5月16日 5月22日 5月26日 5月31日 6月5日 6月9日 6月14日 6月19日

収穫日

りん球の内側2枚目でセンチュウを確認した時点で、りん球への被害が確認された

- ◆ 日が経つにつれて、イモグサレセンチュウが外側の葉鞘から内側の葉鞘へと侵入しているのが明らかとなった。
- ◆ このほ場では、イモグサレセンチュウが内側から2枚目の葉鞘に入る前に収穫することで、被害を軽減できる可能性があると考えられた。

今後の方向

- ◆ 次年度は、土中のセンチュウ密度が異なるほ場で同様の試験を行い、データを蓄積する。
- ◆ データを解析して、イモグサレセンチュウ多発生ほ場における被害軽減のための収穫時期を判定する。

お問い合わせ 野菜研究所 病虫部 (TEL 0176-53-7171)